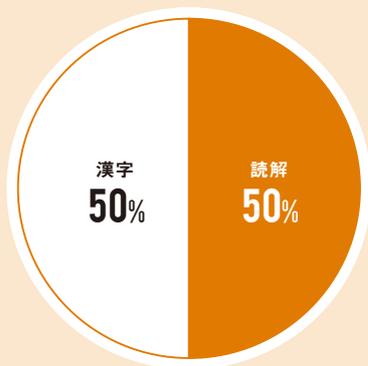


全体の半数が漢字問題。ぜひ得点源に! 空所補充が中心だが、文脈把握力も試される。

出題分野

- ✓ 論理的な評論文が2題出題。
論の展開を意識して読み解こう。
漢字問題対策も万全に!

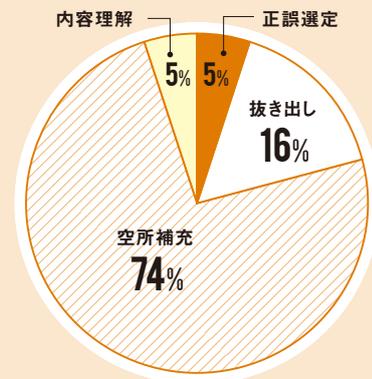
3大問構成で、大問1と大問2が評論文の出題、大問3が漢字の読み・書きの出題となっている。小説・古典・知識問題は出題されていない。大問1・2はそれぞれ2500字程度の短めの文章だが、どちらも評論文などの筆者の主張が述べられた論理的な文章で、抽象的なテーマの文章も出題される。そのため、具体例や筆者の主張の部分を読み分けながら、論の展開を丁寧に押さえて読み解いていく必要がある。また、漢字の設問が全体の半数程度を占めるため、漢字の対策は確実にしておきたい。日々の授業の復習や、漢字に特化した問題集などに継続的に取り組んで、知識を蓄積させていこう。漢字問題は知識を身につければ確実に解答できるので、本番での得点源にしたい。



出題形式

- ✓ 選択式の空所補充の出題が中心!様々な角度から文章理解が試される

マーク式の空所補充問題が全体の70%以上を占めるが、文章中の空所に合う具体例を文章から抜き出す設問や、傍線部の理由説明など、記述式の設問も一部出題される。空所補充問題では、語句選択や接続語補充といった典型的な設問だけでなく、筆者の主張に合う具体例を選択肢から選ぶなど、文章のテーマや文脈の理解を問う設問もある。部分的な読解だけではなく、全体のテーマ、筆者の主張やその理由など、空所前後の論理関係や内容を丁寧に確認したうえで正答を選ぶという、文脈把握と文章理解の力が様々な角度から試されるのだ。漢字問題は読み・書きともに記述式。基本的な漢字が多いが、細部まで正確に書けるようにしっかり対策しておきたい。



北陸大学 国語の攻略法

01 論展開や文脈を意識して、 評論を読み解く力を身につける!

文章は2500字程度と短めだが、具体例と筆者の主張部分を整理しながら、文章の要旨を細部まで正確に読み解く必要がある。過去問題や標準的な問題集を活用して、なんとなく読むのではなく、文章の構造を意識して文脈を丁寧に追う練習を重ねておこう。

02 ドリルなどで、基礎的な漢字の力を 定着させて得点源にする!

全体の半数を占める漢字問題は確実に得点できるようにしよう。難度は標準的なものばかりなので、基礎的なドリルなどで演習を重ねて知識を定着させることが大切。知らない漢字に出合ったら必ず辞書で確認し、「読めるけど書けない」ということがないようにしておきたい。

金沢大学・富山大学との比較

金沢大学は現代文(評論)・古文・漢文の大問3題構成、富山大学は現代文(評論)・古文の大問2題構成で、いずれも評論の読解が攻略の上で重要になる。出題形式は、筆者の主張の理由を説明するなど記述式が中心。出題される文章も言語や文学といった抽象的なテーマであり、論旨を正確に把握することが求められる。なんとなくの読み取りでは太刀打ちできない。文章の構造を意識して文脈を丁寧に追う読み方を身につけておくことが必要となるが、これは北陸大学の入試も同様だ。論の展開を意識した読み方で評論読解問題を攻略しよう。また、金沢大学では古文と漢文、富山大学では古文が出題される。ほとんどが記述式の設問で、金沢大学では傍線部の内容を70字以内で説明する内容理解の設問も出題されている。一方、現代語訳や書き下しなど、語句や文法の知識が解答の前提となっている設問も多い。北陸大学の入試では古文・漢文は出題されていないが、頻出の漢字問題と同様、これらの基本的な知識事項について、今までの授業の内容を復習したり、問題集に繰り返し取り組んだりして、計画的に対策を進め、文法・語いといった古文漢文の基礎となる知識を固めておこう。